

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

# 時事新報

第二千八百八十二號  
 明治廿一年十月十九日(癸亥) 金曜日  
 舊戊子九月十五日  
 日出五時五十分  
 日入午後四時五十分  
 月入午後四時五十分  
 新聞代價五分  
 郵費在內  
 (西曆一千八百八十八年)

時事新報定價  
 時事新報一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價送  
 送料廣告料ハ左ノ如シ  
 一枚三錢一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓  
 一箇年前金六圓  
 ○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送送スルモノニ限り右定價ノ外ニ一箇  
 月二十六錢ノ送送料ヲ申受ケ  
 時事新報廣告料前金

五號活字ニテ	一行二行	三行以上
一行至四行	一日以上	十五日以上
一行至十行	六日以上	十五日以上
一行至二十行	七以上	十五日以上
一行以上	八以上	十五日以上

## 時事新報

文學の隆盛は經世の爲に祝すべきや否や  
 東京の或る筆屋にて曾て支那の筆工を雇ひたることありしにその支那人の談に日本は小國なりと思の外その筆の質高を見れば實に莫大の數にして國の人口の割合にするときは我中華に比して十倍より多し中華の人が筆を用ふるも日本の半數にも至らば我筆師の繁昌は如何ばかりなる可きや忽ち大金持と爲る可きなれども何分にも我國人に筆を用ふる者少なきは困る云々と雇主へ語りしに之は此物に據るときは日本人の筆を用ふる數は支那人に十倍するものなり即ち我國にて文字の流行は彼國に比して十倍の相違あるを見る可し今雙方の國力を比較するときは土地人口と云ひ商業貿易と云ひ我國の彼れに及ばざるは紛れもなき事實なるは獨り文字流行の一點に至りて我れの彼れに優るものと十倍ありんとは實に案外千萬にして我輩の大驚く所なり抑も人間は不平の動物なり知字を要患の始めにして其不平は知識の發達と共に發達し、知識の度いよ、高ければ不平の度いよ、増加し、其程度又至れば時として社會の安寧を妨ぐるものと爲る可し是れを以て一方より見ればは我國文學の盛なるは誠祝すべきが如しと雖も更進しての永遠の結果を考ふるべきは頗る憂念を堪へざるものなる可し在昔徳川氏が天下を討平して幕府を江戸へ創むるや首として林道春を聘して文學の師となし天下に先んじて學校を設くる等、大に學事奨励したるは文學を以て政道の要具、欠くべからざるものと信じざるの故り又は尙武殺伐する武人の武骨を潤飾するに文を以てするの政略又出でざるものあり其何れかは知る可らずと雖も兎に角徳川の政府が文學を奨励して學者を賞びざる其證據は當時士大夫世祿の制、既に秩序を成し晩出の士人が職を以て身を立るの道は極めて六ヶしかりしもの拘はらず獨り學者に限りては其間に出身して大に用ひられ權を占むる者に事柄も少からざるを見て之を知る可し徳川の中央政府にて斯の如くなれば天下靡然として獎勵の風を成し諸藩地の公學を始めとして都門の大儒先生より田舎の村夫子に至るまでも文を講じ理を談じて後進生を導き以て日本文學の隆盛を致したるものと爲る可し

結果は如何と云ふに干差萬別利害一ならざる中にも政治上に於ては後年王霸の名分論を唱へ幕府顛覆の端を開きたる者は即ち徳川の獎學政策に養はれたる學者生々の仲間にして而も徳川官立の大學校とも云ふべき聖堂の中より出でたる者も少なからざりしと云ふ固より當時の事變は外交の關係等種々の原因より由來し其利害是非も今より論ず可きに非ずと雖も徳川の私に就て視れば其末路の天下は時の學者論客即ち無産有志ある不平士人の爲めと擾攘せられたるものにして其他諸藩も於ても黨派の輓轢、刺殺の慘狀等政治上に最も騒動の甚ざるときは文學の最も盛なる處なりしが如し右は我國の近事に就ての實例なれども古今東西、智識の發達と學者書生の不平と相並行するの例は事實を照らして疑ふ可きにもあらざれば教育を奨励して文學の上進を謀らんと欲せば之に伴ふて起るべき人生の不平を豫防するの策を講ずるものと經世家の要務なりと知るべし世人の知る如く支那にては歴代、官吏を登用するに試験を以てするの習慣にして之れを進士及第と名け毎年各省より進士として試験を受くるが爲めに北京に出づる後進の學生は蓋し幾千人に下らざれども固より其の幾千の進士が悉皆及第すべきにあらざれば過半は青雲の志を抱て空しく故郷を歸らざるを得ず故に到る處旅店の壁や墨淋漓淋漓慷慨悲壯の題詩を見る何れも皆落第失意の進士輩が歸郷途上の作として外より之を考ふるときはその落第生が歸郷途上の後は無聊に堪へずして世に物論の騒がしさを致すならんと思はるれども支那に限りて其沙汰なきは如何なる次第なりやと云ふも實際進士に出づる少年は何れも地方富豪の子弟にして家に十分の餘資あるは勿論、出京受験の其間にも顧問とて然るべき老儒を雇ふて郷里より同行するものさへある程の次第れば假令へ落第して家に歸るも生計難しして自ら身を處するは餘裕あるが故ならんと云ふ支那は文學隆盛の國なりと云ふも其盛なるは一般の人民に普及するの故にあらざりして生計苦しき上層階級の中に行はるのみ其事實は前に記したる筆の質高の少なき一事を見て之を證するは足る可し支那の經世の爲めは甚だ祝すべき現象なりと申すべし願みて日本の有様を見れば一國恰も教育に狂するが如く學問の資生立身の要と認められ父母たる者は自ら衣食の資を省て子弟の教育に熱心し拮据經營十數年以て今日に至りたる其效果して空しからず日本文學の隆盛、支那に幾倍するの成觀を致したるは決して偶然にあらず又我輩とて固より教育を嫌ふ非ず、否之を熱する者なれども未だ人の肉體を養はずして先づ其精神の擴を擴くが如きは敢て取らざる所あり我國力の本源たる殖産興業の有様を如何と問へば十數年來教育の進歩と歩を競ふものと能はざる人の許して疑はざる所ならん然らば則ち學問上の精神のみ獨り發達して實物の之に伴はざる其永遠の結果を考ふるべきは或は天下の貧富生を驅て之を不平の域に陥らしむるの心配はかかるべしやと經世の爲に謀りて甚だ憂念する所なり日本人が筆を用ふるも支那人に十倍し假令一年一人一の割合として人口三千八百萬人と三千八百萬本の筆は一文の錢を生ぜずして却て人生無限の不平を造るの用を亦すどもあるべし教育當局者の宜しく熟考すべき所なり

## 官報

大藏省告示第百三十三號  
 熊本縣下八代國庫金出納所ヲ本月二十日ヨリ八代郡八代町本町ニ移ス  
 明治廿一年十月十八日 大藏大臣伯耆松方正義  
 大藏省告示第百三十四號  
 宇土第百三十五國立銀行ノ備明治二十一年十月十七日ヲ以テ熊本縣八代郡八代町本町七百五十番地ニ支店ヲ設置ス  
 明治廿一年十月十八日 大藏大臣伯耆松方正義  
 逓信省告示第百七十三號  
 今般神奈川縣下相模國長浦檢疫廢止ニ付同縣ニ於テ本年(八月)當省告示第百二十八號同處浮標ヲ撤去ス  
 明治廿一年十月十八日 逓信大臣子爵隈本武揚  
 兼任主權官 大膳大夫正四位勳三等公爵 岩倉 具定  
 兼任主權官 大膳大夫正四位勳三等公爵 岩倉 具定  
 非職元東京大學教授正六位理學博士 長井 長義  
 任農商務二等技師  
 農商務二等技師正六位理學博士 長井 長義  
 兼任主權官 大膳大夫正四位勳三等公爵 岩倉 具定  
 兼任主權官 大膳大夫正四位勳三等公爵 岩倉 具定  
 兼任主權官 大膳大夫正四位勳三等公爵 岩倉 具定  
 兼任主權官 大膳大夫正四位勳三等公爵 岩倉 具定

## 雜報

鐘ヶ淵紡績所 同紡績所は本年四月以來工場其他屋舎の建築に着手中にて倉庫四棟は全く成功を告げ工場周壁も高三間有餘迄煉瓦を積上げ既に七分通り竣成し其總建坪は三千坪も下らざる平家なるが故に工場より先年器械買入れ其他紡績業視察の爲め英國へ派出したる社員諸氏も先般歸朝し其以前彼地より運送したる三萬疋の紡績器之に運帶せる諸器械は早既も残らず着荷し又今度雇聘しする技師英人ブルックス氏も亦來着して目下同構内に住居を構へ居り氏は若齡の頃より紡績事業に従事し英國にて七年間更に印度にて十五年間紡績技師を務め此技術に關しての充分熟練と經驗とを積みたる人にて英國も在ても容易く得難き技術家ある由此程本社員が一日同氏を訪ひ種々談話の折柄談述より工業上の事及び及ぶたが今氏が話の概略を述べんに西洋諸國は分業盛んに行はれ工業も於ては殊々然り例へば製紙場の如き又紡績場の如きも各自皆同一の仕事爲すよあらず甲の工場て堅絲を製すれば乙の工場は橫絲製造を専業とするが如く諸般の工業として分業法に則らざるはなく従て器械も亦總て其種類に適合して製造せり左れば一紡績器械を以て堅絲造りも製出すれば器械に太く無理を生ずるを免れず若し強て之を全般もあてはめんとならば經濟上非常の損失を招くと多きものなり今日本の工業に就て見開する處に據れば器械注文の折衝此邊の注意何時も不充分なるが爲め愈々器械運轉の時に當て種々の故障を生ずるか左より先ず目論見の製造品とは不釣合の器械を据付て様々の缺點を見出すが如し例へば新聞紙用の製紙場にて刺煙草の捲紙を製するが如く新聞紙用に

對しては何十年の爲め之を生ずる損失を招くべきの損失を招く、又工業は總て其力より起すものなり、大關係を有する、なる好位地ない、大なる間違ひなき、の盛衰に關係なき、眞進歩は實に、年後に至ればは、利なる器械、愛を爲すに足、は即ち最新最、比較せんに在、時に六七千度、時間一萬四千、は絲を製し得、萬回若くは一、ても全般の紡、運轉するを以、紡績工場は其、固より石炭の、工場の盛衰は、否とあること、  
 ○蜜蜂の話、室の事を記載、を用ふるものと、始まりたるもの、目する所とな、現に専らその、第一なりは、する事、も行はれしが、その飼主死す、之を知らざる、詩人の詩にも、知る所あり千、一なるもの、説を著しし、あるに至れり、箇の種類ある、巢中の房も、さるを異にし、るものは、の房中又は、る一巢の王、美に一本の刺、の女王は巢中、々二千より三、ものもあるべ、の卵を生むもの、り女王は其卵、やよく區別す